

耐震診断と耐震改修・建替え工事費の一部を助成します！

北区では、木造住宅が密集している西ヶ原地区において、建物の不燃化を図り、火災に強い市街地にしていくために、6月より「新たな防火規制」を導入しています。

地震時における木造建物の倒壊を防ぎ、安全を確保するために、耐震改修工事を行う方に、一定の要件を満たした場合、費用の一部を助成しています。

(限度額 50 万円)

さらに、「新たな防火規制」の区域内においては、耐震診断（精密診断）を受けた建物の、建替え工事に対しても、一定の要件を満たした場合、費用の一部を助成しています。(限度額 100 万円)

一定の要件がありますので、まずはお問い合わせ下さい。

北区 まちづくり部 建築課 構造設備係
Tel 03-3908-9176

◆新たな防火規制の区域



滝野川一丁目 25～39 番
西ヶ原三丁目 49～57 番
西ヶ原四丁目 7～65 番

西ヶ原まちづくり協議会ニュース

第 12 号 平成 19 年 8 月発行
発行：西ヶ原まちづくり協議会

第 11 回まちづくり協議会 開催のご案内

日付：平成 19 年 9 月 14 日(金曜日)

時間：午後 7 時 00 分～午後 9 時 00 分頃まで

場所：滝野川東ふれあい館 3階 AB ホール

[議題]

西ヶ原の防災シミュレーション
・地震がきたらどうしますか？

[研究]

建替え助成について

[その他]



(仮称)外語大記念施設用地見学会を開催しました

8月19日(日)に暫定利用小委員会の会員で、整備中の用地の見学会を開催いたしました。

暫定整備の完了後、用地は、平成21年度の(仮称)外語大記念施設建設まで利用する予定です。



事務局：北区役所まちづくり部 まちづくり推進課

TEL:03-3908-9154 FAX:03-3908-2244

第10回まちづくり協議会の主なご意見



○（仮称）外語大記念施設用地の暫定整備について

- ・ 広報板は、見やすい場所に設置してもらいたい。
 - ・ 用地北側のガードパイプ辺りの構成についてもう少し説明がほしい。
- ⇒**現地を確認して、再度検討させていただきます。**

○道路について<密集事業の道路・狭あい道路>について

- ・ 狭あい道路拡幅整備事業により、土地は減ったが、車の出し入れは楽になった。
- ・ 防災生活道路は何年位で拡幅することを考えているのか。
- ・ 拡幅の際の「道路の中心」を決めるのも難しいとわかった。拡幅については、総論は賛成でも、各論になると色々ご意見があるのだろう。
- ・ 道路拡幅に係る地権者の方には、区から細かな情報を提供して話すべき。その後自治会や協議会の場で話していくべきだ。
- ・ 事業地の中で土地を探している不動産業者があるが、それに対し区はどう考えるのか。
- ・ 「主要生活道路」と「防災生活道路」があるが、違いは何か。
- ・ 密集事業で6mに拡幅する場合、狭あい道路の後退部分の土地も含めて買うということとは、もっとPRしていくべきだ。
- ・ 事業計画は、上手く出来ていると思う。ただ、事業地区外の隣接地域も密集市街地であるのに、なぜ事業地区に入れていただけないのか。



[狭あい道路]



[狭あい道路拡幅整備事業による後退済表示板]

○西ヶ原の防災に関するご意見

- ・ 自治会内で、防災訓練があるが、役員しか集まらない。ポンプ等の使い方を知っているのは役員しかいない。多くの人達に使い方を知ってもらわないといけない。協議会で、防災訓練の必要性をPRしていきたい。
- ・ 消火栓につないで放水をしたことがない。防火水槽や池などもないので、火災が起こったときは、バケツリレーの方が役に立つのではないかと。
- ・ 西ヶ原小学校のプールは消火に使えると思う。
- ・ 老人が多いこの地域で、震災が起きたら大変。自営業者も少ないので、24時間地元にいる人は少ない。地域の企業の人達と一緒に訓練をしたことがない。
- ・ 新潟の地震をテレビで見て、ライフラインが機能しなくなった状態で、どう生きていけるかが問われると感じた。プロパンガスなどを備蓄しておく必要があるのでは。
- ・ 防災訓練は、消火訓練と炊き出しだけだ。豊島区で見たが、炊き出しなどの訓練を夜にやっていた。壊れた家から人を助け出すような訓練も必要。
- ・ 滝野川消防団の訓練を見学したが、その時は消火訓練だけでなく、人を救出する訓練も実施していた。自治会にチェーンソーはあるが、訓練で使ったことがないので危ない。
- ・ 災害時の炊き出しを、行政がサポートできるのは、地震の3日後位だと思う。1~3日目を、どう生き抜いていくかが大切。
- ・ 個人的には、外語大記念施設はいらぬ。炊き出しなどがすぐ出来る準備をしておく施設にしておいて欲しい。
- ・ 大震災の時には、近所の人々が助け合っている。消防署では救急救命の講習を実施している。多くの方が講習を受けるべき。
- ・ 道路拡幅も大事だが、空き地を区が買い取り、消火栓をつくれればよいのでは。消防車が入れなくても消火できるような設備を早急にするべき。
- ・ 近所で火事があったのだが、道路が狭くて消防車が入れないし、消火栓の場所が分からないため、消火に非常に時間がかかった。道路の拡幅は大事だと実感した。
- ・ 古い建物が多い地区なので、耐震に対しても関心を持つように、区が啓蒙していく必要がある。
- ・ 食料の備蓄が、どこにあるのか、誰に許可をもらえばいいのかわからない。
- ・ 救助には、家の周りにどんな人が住んでいるか、一人暮らしの老人や障害者はいないかどうか、日頃から把握しておくことが必要。能登半島沖地震の時には、民生委員の方々が、そのことを把握していたことで、人命救助に非常に役立った。
- ・ 最近は、個人情報保護という壁があってなかなか難しい。ただ、回覧板を廻す単位では、みんな状況を把握していると思う。
- ・ 防災訓練の意味や備蓄のあり方について、情報が共有されていない。防災センターを利用し、訓練の質を上げていくことも必要だ。